

磯田道史の

ちよごと

家康み

第8話



2015年 徳川家康公 四百年 記念事業

「空城の計」を検証

家康公は三方ヶ原から命からがら逃げ帰ってきて、次のような策略を敵の武田軍に仕掛けたとされています。

浜松城に入城すると、赤々と松明を焚くよう指示。城門を開けはなち、静まりかえって、まるで罠が仕掛けてあるかのように見せかけた。そして、家康公は、大の字になつてグウグウ寝た。

これが、通説とされている「空城の計」ですが、事実でしょうか。古文書をもとに検証してみたいと思います。

家康公が浜松城に逃げ込んで、まず、行ったのは、敵軍の偵察でした。家臣に「悪いが周りの敵を見てきてくれ。褒美にこれをやるから」と腰の扇子を与えました。それは、もはや使えるものではなかつたそうです。三河武士は正直

者が多い。「畔柳家記」に「ボロボロの扇子を貰った」と、丁寧に書いてあります。

次に、家康公は浜松城内の混乱を鎮める策を立てました。城内には「殿は大敗。お討ち死に」との噂が広まり、大混乱となっていました。そこで家康公は「自分は城内にいてまだまだ抗戦できる」ことをアピールしました。城内の銃をあらかじめ「城外に放て」と命じたのです。その銃声を聞き、敗走した家来が少しずつ城に戻ってきました。武田軍も鉄砲に打たれてはかなわぬと、城の向かいの丘まで来て進軍をとめました。

しかし、城内の混乱はおさまりません。そこで家康公は一世一代の大嘘をつきました。「どこかに坊主の首はないか」

家臣の一人が坊主頭の首をみつめてきました。すると家康公は「その首を刀に差して、城中を走り回

り、「信玄の首をとったぞ」とふれてまいれ」と命令しました。なんと、家康公は信玄の偽首をこしらえたのです。合戦には負けたが、信玄の首はとつたと城内の領民にふれて回つたのです。すると「衆心、にわかになまれり」（「武徳大成記」）。城内の人心はおさまりました。「武徳大成記」は幕府公認の史料。同じ記述は「武功雑記」にもあります。空城の計は「四戦紀聞」という史料にあります。これは家康公の知勇をたたえるための後世の創作。徳川軍は静まりかえってなどいません。パンパン鉄砲を打って武田軍を威嚇。味方の敗残兵を城内に收容するため、城門を慎重に開いていたのです。家康公がやった計略は、空城の計ではなく、信玄の偽首づくりでした。

【次号予告】

信玄が浜松城を攻撃しなかつたワケ

徳川家康公顕彰四百年記念事業 関連イベント 事務局：広聴広報課

「立体しかみ像」が市役所に！

家康公が生涯、戒めのために座右から離さなかつたといわれる「しかみ像」。博物館でお披露目し、好評を博した「立体しかみ像」を市役所本庁舎1階市民ロビーで公開します。



【日時】5月11日(月)～6月12日(金)

家康公葵旅～家康公ゆかりの地を巡るビンゴラリー～

スマートフォン、タブレット端末のアプリを活用し、浜松市、静岡市、岡崎市、豊田市、その他静岡県内にまたがる家康公ゆかりの地27箇所を巡るスタンプラリーを実施します。スタンプを集めてビンゴが成立すれば、抽選で家康公にまつわる素敵な賞品が当たります！

【実施期間】4月20日(月)～12月26日(土)

家康公葵旅



実施中！